

「配偶者等からの暴力に関する調査」の結果

1 調査目的

「配偶者等からの暴力の防止及び被害者の保護・自立支援に関する計画」（計画期間 令和元（平成31）年度から5年度まで）の改定にあたり、配偶者等からの暴力（DV）の実態把握と、それに即したDVの防止及び被害者の保護・自立支援のための施策を検討するための基礎資料とする。

2 調査実施主体

京都府

3 調査対象

- (1) 調査地域 京都府全域（京都市を含む府内市町村）
- (2) 調査対象者 府内在住の満18歳以上の男女
- (3) 有効回答数 2,000人（女性1,000人、男性1,000人）

4 調査時期

令和5年2月1日～令和5年2月3日

5 調査方法

インターネット調査

※注

- 1 文中で、設問の選択肢は「」で表記した。
- 2 百分比は小数点以下第2位を四捨五入した。合計の百分比は基数（標本数）を元に算出したため、個々の選択肢の百分比の合計と一致しない場合がある。
- 3 前回調査に同じ設問がある場合は、今回と前回の比較を行っている。

目 次

- I 回答者の属性
- II DVに関する認識
 - 配偶者暴力防止法の認知度
- III 配偶者からのDVに関する認識と被害経験、被害を受けたときの対応
 - どのような行為を暴力だと思うか
 - 被害経験の有無
 - 暴力が続いた期間
 - 暴力を受けた時期
 - 暴力を受けたとき、どうしたか
 - 相手と別れなかった理由
 - 被害の程度、医師に相談したか
 - 被害を受けたときに相談したか、相談先
 - 相談しなかった理由
- IV DVの子どもへの影響
 - 子どもがDVを見聞きしたことがあるか
 - DV後の子どもの変化
 - 暴力が子どもにも及んだか
- V 交際相手からのDVに関する認識と被害経験、被害を受けたときの対応
 - どのような行為を暴力だと思うか
 - 被害経験の有無
 - 暴力を受けたとき、どうしたか
 - 相手と別れなかった理由
 - 被害の程度、医師に相談したか
 - 被害を受けたときに相談したか、相談先
 - 相談しなかった理由
- VI DVを見聞きした経験とそのときの対応
 - DVの被害者がまわりにいるか、被害者との関係、暴力の種類
 - DVに気づいたときにどうしたか
- VII DVに関する施策
 - 必要な施策
 - 京都府の施策の認知度
 - 相談窓口の認知度
 - 加害者への対応

VIII ストーカー行為や被害経験

被害経験の有無

加害者との関係性

被害による生活の変化

被害を受けたときに相談したか、相談先

相談しなかった理由

IX リベンジポルノに関する被害経験

性的な画像等を撮影・所持された経験の有無

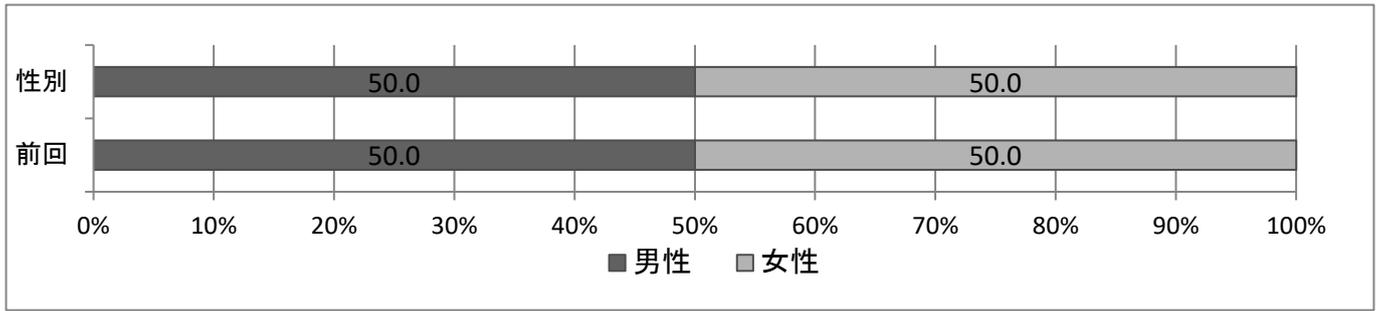
性的な画像等を公開された経験の有無

被害を受けたときに相談したか、相談先

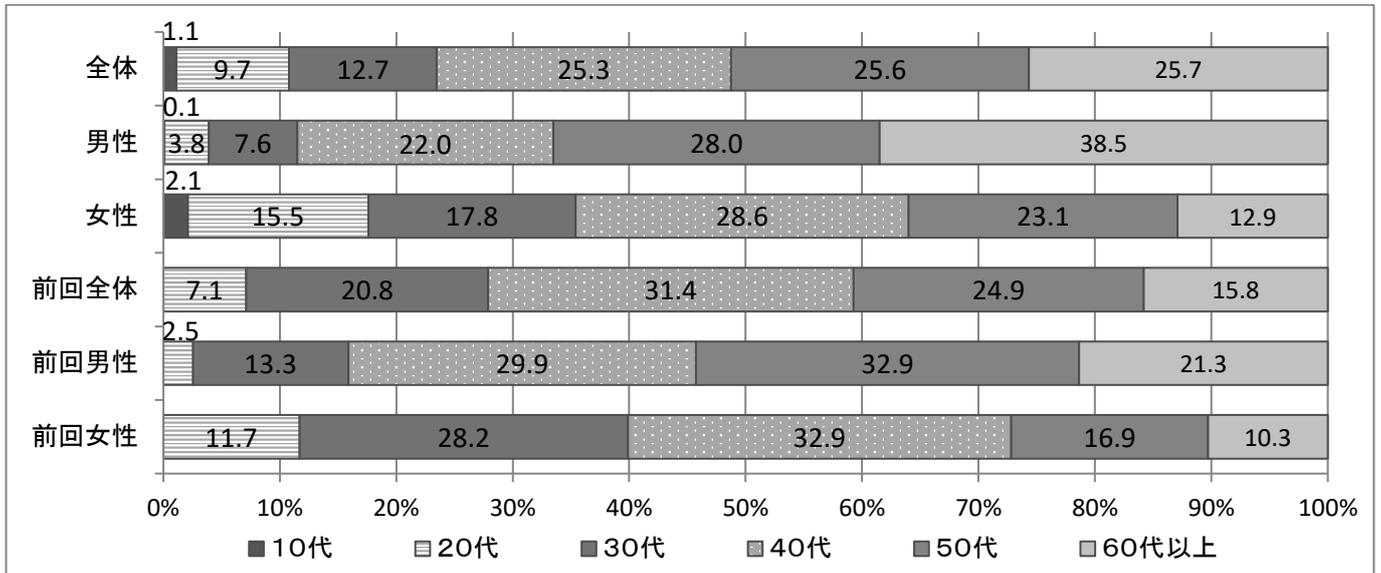
相談しなかった理由

I 回答者の属性

(1) 性別

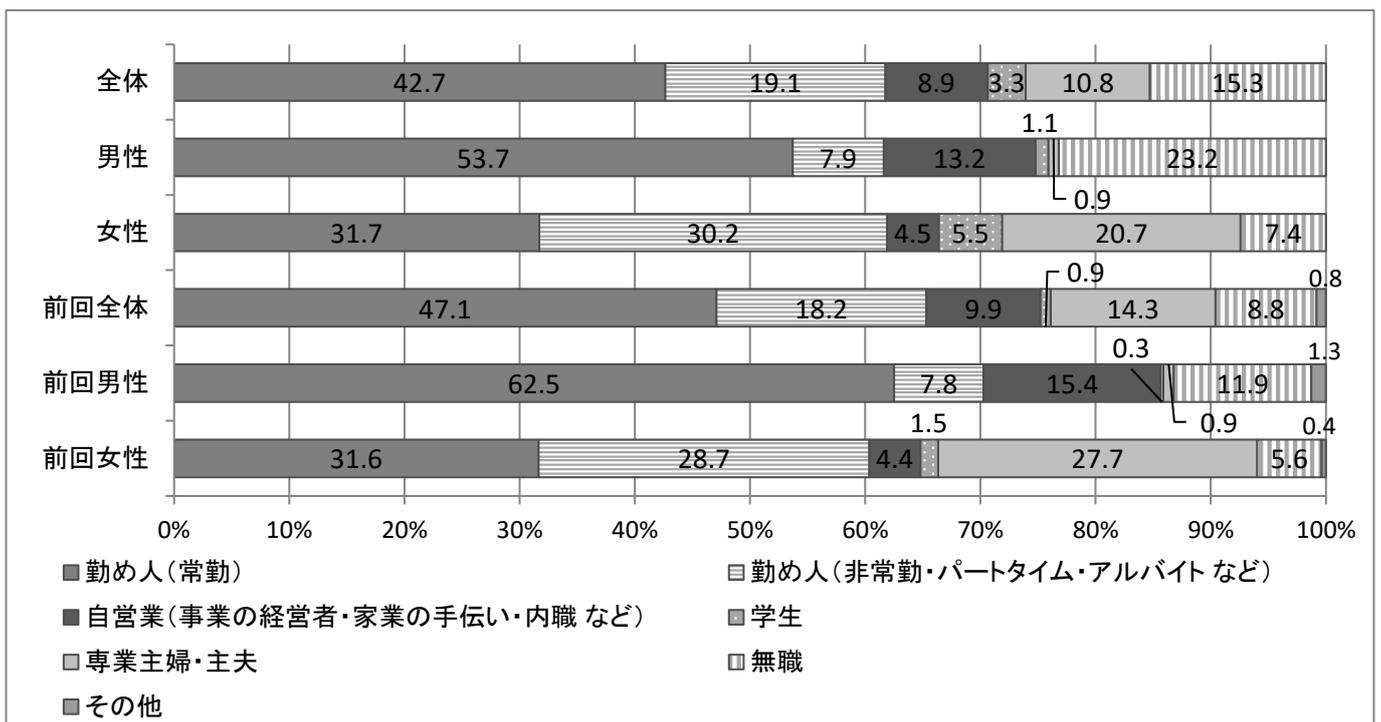


(2) 年齢



※成人年齢の引き下げに伴い、今回調査より対象年齢を18歳以上に変更

(3) 職業



(4) 居住地

